

指定校番号	29043	学級活動		生徒会活動		学校行事	○	中学校用
-------	-------	------	--	-------	--	------	---	------

平成 29 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	海田町立海田中学校	校長	大田 稔	生徒指導主事	野島 悠志
-----	-----------	----	------	--------	-------

取組事例名 『体育祭』

取組のねらい『体育祭への主体的な参加』

3年生が、最高学年としての自覚を持ち、組集団優勝に向けての練習を企画し、下級生をまとめて練習を実施させていくことにより自己有用感をもって主体的に体育祭に参加することをねらいとする。

身に付させたい資質・能力

- ・自己有用感を高める。
- ・自己存在感を高める。

取組の具体的内容『生徒が企画』

体育祭の練習に、全体練習、学年練習とは別に、組集団練習の時間を設け、組集団優勝を目指し、3年生がリーダー中心に個人種目や応援合戦などの練習内容を企画する。また、全学年共通の種目（騎馬戦・長縄跳び・クラス全員リレー）の練習では、過去2年間の経験を活かし、各種目でのコツや作戦を3年生が下級生に指導する。



取組の課題・創意工夫『3年生の担任の負担』

3年生の担任は、生徒に企画させる中で、その枠組みの指導や確認、修正をしなければならない。また、組集団練習中は生徒に指導させながらサポートし、練習後に活動に対しての評価、指導もしなければならない。3年生の担任に負担が偏らないように、同じ組集団の1、2年担任、副担任とさらに連携して指導することが課題である。

取組の成果（効果）『活躍の場』

第3学年の生徒アンケート「自分には良いところがあります。」の肯定的評価が平成28年12月（2年次）では、54.3%から、平成29年7月（体育祭後）では、65.6%で、11.3ポイント上昇した。このことから、日頃、自分に自信が持てない生徒も、ここが活躍できる場になり、自己有用感や自己肯定感を高めることができたと考えられる。

また、共通の目標に向けて取り組むことで共感的人間関係の形成につながり、不登校傾向の生徒も練習に向けて登校頻度が増えるなど、居場所づくりにも効果があったと考えられる。

今後の展開『全体としての取組への移行』

今年度からの取組であり、反省点として「他学年との連携不足になり、第3学年に負担がかかりすぎたこと」、「他学年としても指導に参加することが難しい状況だったこと」が挙げられる。教員間の連携により、教員も生徒も組集団練習での意識を統一し、さらに効果的な取組になると思われる。

他校へのアドバイス『やらせてみればできる』

3年生は生徒指導上課題が多い学年で、彼らが主体的に活動することができるか、また中心になって下級生に指導できるか心配だった。しかし、指導する立場であることを自覚したことからか、服装、授業態度、授業遅刻の改善や主体的に取り組む、練習ごとに改善に向けて話し合う姿が見られた。生徒指導上の課題が多い生徒も、体育祭後の解団式では、下級生に対して、優勝できず力が及ばなかったことへの反省の言葉や指導を受け入れてくれたことへの感謝の言葉を述べることができた。